



実践団体情報 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です)

必要に応じてセル (表の枠) の高さを調整していただいて構いません

記入日	西暦 2020 年 1 月 11 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
代表者名	近 藤 嗣 郎
プラン全体のタイトル	ワンチーム常磐東！ ～地域・学校・関係諸機関が連携した防災活動～
電話番号	(0564) 46-2108
メールアドレス	srkondo@st.oklab.ed.jp
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	常磐東小学校は約 120 年の伝統ある山間部の学校である。 この 20 年間で人口減少が進み、児童数は 46 人。人やもの と、関わる機会があまりなく、表現力が乏しく、素直であ るが積極的な活動が苦手な児童がこれまで多かった。
所属メンバー	代表 校長 近藤 嗣郎 担任 教諭 伊藤 聡子 防災活動の中心は、小学 6 年生の 6 名
活動地域 〇〇地方・〇〇校区など活動地域の範囲に合 わせて記載してください。活動範囲が小さい 場合には都道府県名など場所が特定できる情 報を入れてください	愛知県岡崎市立常磐東小学区で 6 つの町からなっている。 米河内町・大柳町・安戸町・新居町・小丸町・蔵次町 ・過疎化が進み高齢者が多く限界集落に近い町もある ・県より土砂災害特別警戒区域に 117 か所指定されている
活動開始時期・結成時期	平成 25 年 (2013 年) 9 月から
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴 (チャレン ジプラン以外も含む) をご記入ください	2014 年度：防災コンテスト(e 防災マップ)優秀賞 2015 年度：アクサユネスコ協会減災教育の研究助成校 2015 年度：学校防災シンポジウム愛知工業大で研究発表 2016 年度：東京海上日動教育振興基金の研究助成校 2017 年度：第 18 回「中部の未来創造大賞」で大賞(1 位) 2017 年度：学校防災シンポジウム岐阜聖徳学園大で発表 2017 年度：愛知県青少年赤十字活動研究推進委嘱校で発表 2018 年度：第 49 回「博報賞」(教育活性化部門) 受賞 2019 年度：防災教育チャレンジプランの研究委嘱校 2019 年度：ぼうさい甲子園で奨励賞を受賞 (全国 3 位) 2019 年度：ちゅうでん教育振興助成で研究成果を発表



プラン全体の概要	1 研究のきっかけ 常磐東小学校は約 120 年の伝統校である。過疎化が進み高齢者中心の学区である。児童数も減少し続けて 46 人である。県より「土砂災害特別警戒 山に囲まれた学校 区域」に 117 か所指定されており、台風や大雨、地震等の際、大きな石が崩落してくることも度々ある。最近、異常気象で災害が多数発生しており、本学区も危険度が高くなっている。しかし、地域の防災意識は低く、小学校が核となり防災活動をするよう総代会や社教から要望があった。 児童の様子は、他人との関わりが少なく、意欲的に周囲の人に話しかけるのが苦手である。また、級友は 6 年間一緒に、積極性はみられない傾向にある。産業もなく高校を卒業後は、地域から離れて転居する若者が多い。 そこで、地域の要望と児童の成長を願って、次のような目的で、防災学習を始めた。 赤十字社の方を講師に防災授業 2 研究の目的 ○子供自身で、身の安全を確保できるようにする。 ○地域の方々と協力し、防災アンケート、防災マップや看板を作成して、地域の防災意識の高揚を図る。 ○保護者・地域・大学・NPO 法人・行政と連携して児童が多くの人との関りを体験する。 ○地域の人と一緒に地域のための防災活動を推進することを通して子供自身が地域の一員としての自覚を育てる。 ○子供の思考力・判断力・表現力を培い、活動の達成感を体得し、自尊感情や自己存在感を育む。
-----------------	--



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4 月	降下訓練を追加	降下訓練の準備	第 1 回防災避難訓練
5 月	心肺蘇生法の講師や器具	講師依頼アンケートの原案	防災減災授業 防災会議①
6 月	防災アンケートとマイタイムラインの内容の精査	講師・器具(人形・AED)	心肺蘇生法訓練(高学年対象) 心肺蘇生法訓練(保護者対象)
7 月	アンケート等内容の修正	案内・資料	防災会議②
8 月	各町の総代にアンケート 配付のお願い	2 種類のアンケートの印刷 消火器(水)の準備	アンケート(地域・保護者) 第 2 回防災避難訓練
9 月	まちあるきの内容等 出前防災発表原稿・資料	土砂災害マイタイムライン の印刷	親子防災学習 防災会議③ まちあるき(大柳・新居等)
10 月	出前発表のために各町の 総代さんと日時の調整	出前防災発表原稿・資料 危険箇所の写真	研究の中間発表(名古屋) 電子マップの更新(授業)
11 月	信里小学校との連絡	土砂災害マイタイムライン	出前防災発表(米河内町)
12 月	防災パンと保存水の注文 信里小学校と交信練習	土砂災害マイタイムライン の調査用紙	出前防災発表(大柳・新居・ 小丸) 防災会議④
1 月	防災パンと保存水の発注 TV 会議の案内状	TV 防災会議の事前資料	第 3 回防災避難訓練(予告無) 防災会議⑤
2 月	防災パンと保存水の配付 研究発表会の案内発送	TV 防災会議の当日資料	信里小と TV 防災会議 防災パンと保存水の販売完了
3 月		研究発表会資料	校内防災研究発表会

プラン全体の反省点・課題・感想	① 活動の課題作りに苦労したが、アンケートの意見や結果 児童の意見、防災会議の支援で非常食の販売ができた。 ② 4 回の出前発表を通して児童が次第に自分の言葉で地域 の人に語り、表現力・判断力・思考力が向上できた。
今後の活動予定	① 防災アンケートとまちあるき&防災マップ更新は、7 年 間継続して実施している。地域の防災意識や活動の振り 返るためにも、継続して実施していきたい。 ② 7 年間の防災学習の成果を完成させ全戸に配布したい。



実践団体情報 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です) 実践したプランの内容と成果 (実践したプランのだけ記入する内容です)

複数のプランを実践した場合にはプランの数だけ、ここから後の 5 つの表をコピーして記入してください

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません

「★」は任意ですがそれ以外は極力埋めてください

記入日	西暦 2020 年 1 月 17 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	命を守る「避難」と「救助」
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 15000 円
実践の準備にかかった時間	1 ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年①4/11②6/5③6/13④8/30⑤2020 年 1/9
実践の所要時間	1 回につき約 60 分 5 回の合計 約 5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 30 人
防災教育の対象者の属性	① から⑤全校児童 ③保護者
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市米河内町
実践を行った具体的な場所	① から⑤すべて学校
★実践に必要なだった特定の能力	②と③心肺蘇生法訓練の講師

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	① 避難：防災避難訓練を全校で毎学期（4月・9月・1月）実施 ○「あ・お・は・し・も（あわてない・おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」を守り、適切な判断で避難できる。 ・非常災害（地震並びに火災）の発生に際し、全児童が安全に敏速に避難できるようにする。 ・災害に対する家庭での知識を高める。 ・校内放送や教師の指示に従い、落ち着いて適切な判断ができるようにする。 ・地震接近のカウント放送があったら、火を止め、安全な適切な場所を選び「シェイクアウトできるようにする。 ・休み時間に大人がいなくても避難の判断ができるようにする。
--	--



シェイクアウトする児童



	② 救助：心肺蘇生法訓練を実施（6月5日高学年 6月13日保護者） ・高学年で心肺蘇生法訓練を実施し、身の回りの人を救う方法を学び緊急時に判断できる知識や技術をもてるようにする。（6/5 高学年） ・保護者、学区の人を対象に心肺蘇生法訓練を実施して、緊急時に判断できる知識や技術をもてるようにする。（6/13 保護者）	
どの力を身につけようとしたか？ 該当しないものを削除し該当するものを1つ残す	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	① 避難訓練：年3回（約60分間）全校児童・教職員対象 ・1学期4月11日 避難訓練、降下訓練と防災倉庫見学 ・2学期9月12日 避難訓練、消火器・担架・AEDの使用訓練 ・3学期1月9日 避難訓練、予告無しの児童が自分で判断する避難 ○第1次避難行動訓練…対地震避難行動 ・緊急地震速報装置の放送を聞いて、担任の先生の指示により机の下等に身を伏せ、適切な安全な場所で自らシェイクアウトする。 ・通報（2回）「訓練地震発生、直ちに机の下や近くの物が落ちない安全な場所に避難しなさい」 ・児童は、通報を静かに聞く。 ○第2次避難行動訓練…対火災避難行動 ・通報2回「訓練火災、ただ今、家庭科室から火災が発生しました。直ちに運動場の南側、第1避難所に避難しなさい。以上」児童は通報を静かに聞き担任の先生の指示に従う。・火を消し、窓を締める。 ・特別教室にいる者は、基本的には火元から遠ざかる方向で避難する。 ・赤白帽で頭部を保護する。右手で左腕をもって、左手でハンカチをもち、口にあて、黙って避難する。避難完了、異常の有無の報告 ○第1避難所での報告（運動場の防災倉庫の前） ・1学期は、「防災倉庫の見学」、2階を教室に使っている4～6年生は「救助袋を用いた降下訓練」を実施。 1から3年は「降下訓練」を見学する。 ・2学期は、「避難路が通れなかった場合」に避難経路を変えることや、「人が倒れていた場合」は「担架」や「AED」を用いての対応の仕方や、消火器の使い	



担架・AEDを用意しての訓練



	方も訓練する。 * 消防署より水消火器を事前に10本借りてくる。 (本年度は、雨天でしかも日程変更ができず、消火器訓練だけは中止) * AEDは持ってくるだけで、6月に細かい訓練を実施する。 * 学校に設置の担架で、倒れている担当の人を実際に運ぶ。 ・3学期は、「予告無し」で突然の「地震放送」に対して、自分の判断で適切な行動ができるようにする。 * 「避難訓練週間」として1週間の間で行うことを事前に児童に知らせるが、具体的な日時は発表せずに、突然実施する。 ② 救助訓練：心肺蘇生法訓練 学校で実施各約60分ずつ ○6月5日 対象：5年と6年児童13人 場所学校オープンスペース ・講師：元岡崎消防署長の大山恭司氏 人形3体：岡崎消防署 ・心肺蘇生法（胸骨圧迫 AED）の大切さの説明と実践 ○6月13日 対象：保護者と教職員と全校児童100名 場所：体育館 ・講師：日本赤十字社愛知県支部の講師 人形10体：岡崎市教育委員会 ・心肺蘇生法（胸骨圧迫 AED）の大切さの説明と実践 ・実践は保護者と教職員 全校児童は見学
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 避難訓練（1学期 2学期 3学期） ・避難に所用時間（目標3分以内：1学期の4月は2分45秒、2学期の9月は2分40秒、3学期1月2分50秒） ○1学期は、4年生以上対象に「降下訓練」を実施（3年生以下は見学）した。 ・昨年までは、3学期に毎年実践していたが、命に関わる大切な体験なので1学期に実践をした。 ・低学年は怖がり時間もかかる。危険なので1から3年生までの児童は降下訓練を見学した。しかし見学だけでも訓練内容を理解することができた。 ○2学期は、昨年度から水消火器で、初期消火訓練を実施した。本年度は雨天中止。AEDや担架を用意する訓練を実施した。 ○3学期は、「予告無し」で突然の「地震放送」に対して、自分の判断で適切な行動ができるようにした。



直下型降下訓練



水消火器を使っの訓練(昨年)



- ・先生方には事前準備で、① 1 時間かけて教室、廊下、トイレ、運動場、オープンスペースなど、様々な場面を想定し、どのように行動するといいか話し合った。②火元がどこで、どちらへ逃げるのか、西側の扉は鍵がかかっているの

- トイレのドアは出られなくなるから開けること、遊具から離れる「あ！おはしも」や放送を聞く。



自分で判断しての避難訓練

ハンカチ、はながみを常に持ち歩く、など確認された。

- ・本校は児童の人数が少ないので、多くの児童は混乱もなく、自分で判断して冷静、適切な場所でシェークアウトをして避難できた。

② 救助訓練 1：心肺蘇生法訓練（高学年対象）

○6月5日 対象：5年と6年児童 13人 場所学校オープンスペース

- ・講師の大山様は、元岡崎市西消防署長で、救急救命士の資格を市内で最も早く取得された方で、緊急時の対応について、DVDを活用したり、胸骨圧迫や AED 操作の仕方や岡崎消防署への通報訓練等を、子供たちにも分かりやすいように教えてくださったりした。
- ・子供たちも、今回の講習で小学生の自分たちでも大切な家族や友達あるいは周りの人の命を守ることができるという自覚が生まれた。

○児童の感想

心ばいそ生法や AED を、大山さんから教えていただきました。最初は、どのようにやったらよいかわかりませんでした。でも、心ぞうのあたりを、体重をかけて押すと、初めてでもできました。AED も機械のアナウンスの指示どおりやると、自分一人でもできました。いざというときに、自分でも命を助けることができると思うと、本当に学んでよかったです。

③ 救助訓練 2：心肺蘇生法（保護対象）

- ・毎年実施している。保護者の方も 30 名以上ご参加いただいた。
- ・今まで練習用の人形や AED は 3 セットほどであったが、今回は市教育委員会の協力もあり 10 セット借りて、一度に多くの方が練習することができ、短時間で内容が充実できた。



保護者対象の訓練



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
該当しないものを削除し該当するものを残す	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	・3学期の避難訓練では、外履き用の靴に履き替えようとしていたり、帽子やハンカチを教室に取りに行こうとしていたりした児童は先生や上級生に「戻らない」途中で注意を受けた。 低学年の児童で、トイレにいた時、突然に放送が入り、「どうしたらよいか困った」が、最終で点検をしていた先生と一緒に避難場所に来られた。(実際に起きた場合、自分で避難場所に来ることを説明) ・昨年度までは、保護者の心肺蘇生法訓練は、児童も一緒に実施していた。とても時間がかかることや、訓練せずに見ているだけお保護者もいた。そこで本年度は、高学年の児童を別の日に実施して、分けたのでスムーズに行えた。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください	
関係者の名前・団体名	愛知県赤十字災害救護奉仕団 田村 登
関係者の説明	心肺蘇生法の練習の人形やAEDを持参して講師をしていただいた
関係者の連絡先	090-3157-8308

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください	
伝えたい相手	5年、6年児童に講師をしていただいた元岡崎消防署長の大山恭司氏
伝えたい内容	大山恭司様は、小学生の児童を対象に心肺蘇生法講習を初めて行われた。何度も学校に足を運んでいただき、細かい打ち合わせをしていただいた。当日はとてもわかりやすい言葉で、小道具も準備されて、児童が楽しく学べるように工夫していただき感謝しています。



わかりやすく教えていただく大山様



「★」は任意ですがそれ以外は極力埋めてください

記入日	西暦 2020 年 1 月 16 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	ぼくらは、危険か所調査隊！
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 30000 円
実践の準備にかかった時間	9 月と 10 月
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 9 月 20 日と 10 月 11 日
実践の所要時間	調査 3 時間 調査結果で電子作成 2 時間 合計 5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 10 人
防災教育の対象者の属性	常磐東小学校 6 年児童
防災教育の対象者の人数	6 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市常磐東学区内 (大柳町 小丸町 新居町)
実践を行った具体的な場所	小学校からの通学路の道路を中心に危険箇所の検査・点検
★実践に必要なだった特定の能力	地元の危険箇所に詳しい人 (各町の総代) パソコンの電子マップ更新作業に詳しい能力

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	① 本学区は、昔は良質な花崗岩を産出し「石の町」として繁栄した。だが、風化した花崗岩が堆積して形成された「真砂土」は、流動しやすく土砂災害の要因で県より「土砂災害特別警戒区域」に 117 か所指定されている。地域の危険な場所が通学路にもあることを知り、地域のために尽力する気持ちを培う。(学ぼうとする力) ② 地域や大学、NPO 法人などの方々と一緒に調査に出掛けて、どういったところが危険なのか、どうして危険な状況になったのかの知識を得ることができる。(思考力・判断力 知識・技能) ③ 地域や大学、NPO 法人などの方々と一緒に調査をする中で積極的に、わからないことを聞いたりして表現力を培う。(表現力) ④ 「まちあるき」で得た情報を、学校のホームページに掲載している電子防災マップに写真を添付したり、説明を簡潔に載せたりすることができる。(思考力・知識・技能)
--	--



どの力を身につけよう としましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</u>	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	① 防災会議（教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなる） ○防災会議① 5月22日 13名参加 危険箇所調査「まちあるき」 ・年間計画で2学期に「まちあるき」を実施することを確認 ○防災会議② 7月10日 15名 「まちあるき」の場所と日程 ・6年の児童が住んでいる町(大柳町・新居町・安戸町)の「まちあるき」を確認 ・熱中症が心配なため、9月下旬に実施を予定 ・「まちあるき」の案内は、大柳町副総代の今井様、新居町は社教の中根様。調査研究は、愛知工業大学小池則満教授、岐阜大学橋本操准教授、NPO 法人ドゥチュウブの小穴久仁様に一緒に、一緒に調査をお願いした。 ② 「まちあるき」の日時は、9月20日13時から15時45分 ・参加者：学校：6年生児童6名、教師2名、 大学：2名、NPO 法人1名 地域(案内人)2名、 合計13名で実施した。 ・場 所：大柳町・新居町・安戸町の通学路を中心に土砂崩れなどの危険がある場所を中心に活動 ・活動内容：事前に地域の方が情報を集めて、危険箇所を教えていただいたり、児童が通学していて不安に思っていたりしたところ等を中心に調査した。児童は学校のタブレットを一人1台持参して、危険箇所を写真を撮り、その場で気づいたことや説明を聞いたことなどを打ち込んだ。 ③ 電子マップ更新作業 10月11日14時40分～15時40分 ・参加者：6年生児童6名、教師2名 大学：2名、NPO 法人1名 合計11名で実施 ・場所：パソコン教室 ・活動内容 最初10分間で NPO 法人ドゥチュウブの小穴久仁様から、パソコンでの入力の方法を説明。児童は2人ずつペアで3グループに分かれて	



	自分が撮影した写真、その説明の入力を開始した。 大学・NPO 法人の方々はそれぞれの班に 1 人ずつ担当で付きながら児童の入力を支援していただいた。 A グループは大柳町 B グループは安戸町 C グループは新居町に分けて、それぞれの調査した内容がダブって入力されないように配慮した。最後に NPO 法人ドゥチュウブの小穴久仁様が、児童が入力した内容が、防災マップの反映されるようにしていただいた。
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 何気なく毎日通っていた通学路の崖などが、「真砂土」という、流動しやすく土砂災害の要因で県より「土砂災害特別警戒区域」に117 か所指定されていることを知って驚いた。 ② 地域の総代さんの説明を聞いたり、最近の大雨で土砂崩れの場所を見たりして、身近に危険な場所あることを知った。学校の他の児童や地域の人に伝えることの大切さを感じた。 最近土砂崩れがあった場所の説明 ③ 児童は、地域や大学、NPO 法人の方々と一緒に調査して、 ・花崗岩が長い年月で風化して「真砂土化（まさど）」している ・雨水が凍って大きな岩盤が裂ける ・木々の根が石の裂けたところに入り裂け目を大きくする ・昆虫が木々の根や幹を腐らせて倒している など、その場で説明をしていただき、学ぶことができた。 ④ 「まちあるき」で得た情報を、パソコンに張り付けたり説明を打ち込んだりして、多くの人に見ていただくことで、地域や後輩のために役立っているなど、達成感をもつことができた。 調査結果をパソコンに打ち込む作業 ⑤ 学校のホームページに掲載している内容を、学級でもお互いに紹介することができた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
<u>該当しないものを削除し該当するものを残す</u>	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	① 本校では、地域と協力して、5 年前に紙媒体で全戸に大きな防災紙マップを配付した。調査結果を、紙媒体でカラー印刷して配布するには、大きく丈夫な用紙を使い、カラー印刷をしないと、学区が広すぎてわからない。防災紙マップの配付は、印刷会社でしかできず、しかも、毎年となると予算がかかり、不可能である。 ② 巨大な用紙に写真などを張り付けて、全員で 1 枚の防災紙マップを作る方法は、多くの学校で実施されている。それを学校の廊下などに貼っておくだけでは、情報は学校内にとどまり、あまり地域には貢献できない。 - 本校も、毎年学区の拡大地図を用意し、地図に危険箇所の写真を貼ったり、説明等も書いたりして、防災紙マップを掲示してきた。 - 平成 28 年度には、アナグリフ写真を地図に貼り、危険場所を青赤眼鏡で見られる工夫した。 - 本年度は、地図の場所を確認して添付して記入する作業だけで 4 時間ほどかかるので、授業時間の確保や非常食販売や TV 防災交流などの時間確保のため中止した。 ③ 本校の特長は、7 年間毎年防災電子マップの作成である。学校のホームページの中の「防災学習」欄に「防災マップのコーナー」を新しく設定して、子供たちが調査した内容を毎年更新している。 - タブレットで写真を撮れば必ずその写真にはどこで撮影したかわかるように表示が出てくる。また、写真を撮影したところでコメントを入れれば、学校に帰ってから整理するときも「何のために撮影したか」が、わかるようになっている。 - 電子マップには自分たちが撮影したものだけを見ることもできるし、これまでの先輩たちが撮影した写真やコメントなどのすべてを	



学校・大学・地域と協力して紙マップ作り



	合わせて見ることができるようになっている。これまでの研究の成果が積みあがっている様子が伝わってくる。 ・「防災電子マップ」は、誰でも常磐東小学校のホームページで閲覧できるが、認知度が低い。「学校だより」「校長だより」等で今後さらに紹介して、地域の「防災電子マップ」への関心を高めたい。
--	--

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	特定非営利活動法人ドウチュウブ（DoChubu） 小穴久仁 落合鋭充
関係者の説明	愛知工業大学地域防災研究センター内にあって大学と連携している
関係者の連絡先	0565-48-8818

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	特定非営利活動法人ドウチュウブ（DoChubu） 小穴久仁 落合鋭充
伝えたい内容	児童の関心寄り添い、「まちあるき」をして、課題の解決やマップ作りにもご協力してくださり、不可能が可能になっています。 7年間ずっと一緒に本校と研究してきており、これまでも、防災紙マップや、防災電子マップ、防災アナグラフマップ作りなどに多大な協力をしていただいています。本当に感謝しています。
伝えたい相手	「まちあるき」に協力いただいた大柳町副総代の今井さん
伝えたい内容	大柳町の総代さんがお仕事で案内ができなくなり、困っていたら、副総代の今井さんが、気持ちよく引き受けていただきました。どこを案内したらよいか、事前に調べられて、地図をコピーして子供たちにもわかりやすく説明していただきました。 いろいろ場所が離れているので、歩いて移動すると1時間かかってしまうので、大型のワゴン車で児童と担任を全員を載せて案内していただきました。本当にありがとうございました。



説明されている今井副総代



記入日	西暦 2020 年 1 月 16 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	次世代型 TV 防災交流授業
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 1 0000 円
実践の準備にかかった時間	11 月から 2 月 (3 ヶ月)
実践活動を実施した日時	2020 年 2 月 4 日 14 時から 15 時 10 分 (予定)
実践の所要時間	70 分
実践の運営側で動いた人の人数	約 30 人
防災教育の対象者の属性	常磐東小学校 6 年児童と長野市立信里小学校 6 年児童
防災教育の対象者の人数	常磐東小 6 名 信里小学校 9 名 合計 15 名
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市米河内町と長野県長野市篠ノ井
実践を行った具体的な場所	愛知県岡崎市常磐東小学校の 6 年教室 長野県長野市立信里小学校の 6 年教室
★実践に必要なだった特定の能力	TV 情報交換ソフト Zoom の操作に堪能な人

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	① 本校では、教室に居ながらにしてはなれた学校と防災学習について協議し、互いに考えを高め合うことを目的に行っている。(思考) ② 長野市信里小学校 6 年児童とは、同じ規模で、防災教育に取り組んでいるおり、本年度もテレビを通じてお互いの考えを深め、その内容を適切に表現できるようにさせたい。(表現力) ③ 長野県は今年台風 19 号で千曲川が氾濫し大被害を受けた。信里小学校も、防災学習で台風の被害について調査や活動などを行っているようだ。今までの活動を紹介しあい、今後の活動に活かしたい。 ④ 今後ますます IT 化が進む中、一人 1 台のタブレットを用いての授業が予想される。そうした環境の中で、しっかりとした情報機器の知識や技術を身に付けさせたい。(知識・技術)
--	---



	⑤ 来年度は人数の多い中学校へ、将来はいろんな環境で仕事をする際にも、小規模校だからといって、物怖じせずに誰とでも積極的に表現して、最適な行動できる人材を育成する。(人間性)	 信里小学校とのTV防災会議(昨年)
どの力を身につけようとしたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</u>	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	大いに かなり かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	① 防災会議 (教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなる) ○防災会議① 5月22日 13名参加 「他校とのTV交流」 ・他校とのTV会議を実施することを協議し、決定。 ○防災会議② 7月10日 15名 ・㊦近隣 (常磐南小、下山小、恵田小)、㊧市内の先進的な取り組みの学校 (上地小、矢作北小)、㊨他県 (防災チャレンジで取り組んでいる学校)、㊩昨年度と同じ信里小学校等、候補地を協議する。 ○防災会議③ 9月20日 16名 ・信里小学校からも交流継続の依頼を受けており、昨年度と同じ長野県信里小学校に決定。 ・信里小学校は、本校と同じ規模の全校児童44名。防災学習研究校である。TV通信交流にも協力的で岡崎市が利用している「Zoom」の無料通信ソフトをインストールしていただけることも確認した。 ・本校に助言をいただいている愛知工業大学の先生も同校に支援をしているとのことで、研究として円滑にできる。 ② 第1回交信テスト 11月21日 15時30分～16時50分 ・岡崎市 ICT 担当 IZA OK と長野市富士通担当富士通 FIP の協力の下フリーソフト「Zoom」を使い、交信がどの程度できるか、試験交信を実施。(初めて両校の担任同士が顔を合わせて交信をした) ○第2回交信テスト 12月23日 16時～16時50分 ・岡崎市 ICT 担当係 (IZA OK) と長野市富士通担当者の指導の下	



	「Zoom」で、操作をしながらパワーポイントの映像、音声のつながり状況を点検。 (両校の担任が顔を合わせて交信をした) ・本校が実施している「土砂災害マイタイムライン」をデータで送り事前に信里小学校の児童が実施する予定。 ・信里小学校からは、台風19号で被災した状況を話され、児童が千曲川氾濫で被災した様子を調査していることを伺った。 ○第3回交信テスト 1月27日 16時～16時50分(予定) ・岡崎市 ICT 担当 IZA OK と長野市富士通担当富士通 FIP の指導の下「Zoom」で、両校の担任が2月4日の当日の打ち合わせを予定。 ・両行の児童が発表する資料を提示しながら、お互いにリハーサルをしたり、両校の役割を決めたりして、児童が主体となって活躍できるように打ち合わせを予定している。 ③ 次世代型 TV 防災交流授業 令和2年2月4日 14時～15時10分 ・会場：両校の6年教室 ・児童：常磐東小学校6年6名 信里小学校6年9名 ・参加者：児童・教師・防災会議のメンバー 岡崎市 ICT 担当 IZA OK と長野市富士通担当者 (FIP) 昨年度の信里小学校とのTV交流授業 ・次 第 *ファシリテーター愛知工業大学教授小池則満様 両校あいさつ&自己紹介 常磐東小学校：学校や学区の紹介・今年度の活動・質疑 信里小学校 ：学校や学区の紹介・今年度の活動・質疑 大学・NPO 法人・両校の代表による話
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 現在、2月4日に向けて児童はパワーポイントなどで、学校や学区の紹介映像、これまでの実践（「土砂災害マイタイムライン」の出前発表・避難訓練・まちあるきと電子マップ・非常食）のまとめを



信里小学校との交信テスト



昨年度の信里小学校とのTV交流授業



	映像で作成している。 ② これまでの活動等を、テレビを通して相手に伝わるように、適切にまとめて、表現力・思考力を育成している。 ③ 「土砂災害マイタイムライン」を事前に送り、信里小の児童に実践してもらうことで、調査のさらに工夫をすることや改善することなどを考えることができる。 ④ これまでの準備段階まででは、両校の子供どうしの関りがなかったのでTV交流成果や子供に身についた力としては、2月4日の信里小学校との交流以降となる。	
1月17日の途中経過段階で、どのくらい身についたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	① 昨年度のテレビ防災会議で本校が使用した「appear.in」は、内容が大きく変更された。そのため岡崎市のセキュリティ上問題が生じて使用不可となった。 ② そこで、別のソフトを探したところ、テレビ会議用フリーソフト「Zoom」であれば、岡崎市の許可が下り、信里小学校に連絡した。その結果、信里小学校も長野市や富士通の方にも許可を得て、実施が可能となった。 ③ スカイプは、信里小学校は使っていないので使用はできない。 ④ 市内では映像&音声情報が、リアルタイムでできるが、市外の場合は、映像情報に時差があり、ゆっくり話さないと伝わりにくい。 ⑤ 両校の学校行事などもあり交信テストの日時が簡単に決まらないことがあった。授業の進捗や活動の実践報告についても2月以降でないと難しいことわかった。 ⑥ ICT関係で岡崎市ICT担当（IZA OK）様には、パソコンの交信が途中でストップしたり、トラブルで音声や映像が映らなくなったりすると、授業ができないので、交信の際に毎回来ていただいた。	



昨年度の信里小学校とTV交流授業



★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について 1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください	
関係者の名前・団体名	岡崎市の ICT 関連担当者（IZA OK イザ オッキー）
関係者の説明	ICT 関係に関するソフト開発・トラブル対応・接続・質問など様々な内容で、岡崎市が契約している ICT 専門業者
関係者の連絡先	0120-322-118

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ 1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください	
伝えたい相手	長野市立信里小学校の児童及び先生方
伝えたい内容	長野市は台風 19 号で大被害を受けたと交信で伺いました。 ・ 床上・床下浸水の被害に遭った学校が多くあること。 ・ 避難所となった学校では、普通授業を開始していること。 ・ 大きな災害に遭った小学校（堤防が決壊した学区の小学校）では、近くの小学校の教室を借りて授業をしていること。 ・ 中学 3 年生が近くの中学校で授業をし、1、2 年生が自校の 2 階以上で授業をしていること。 ・ 被災しなかった学教職員は、交代制で復興支援作業をしていること 本当に、災害前の生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうですね。「One Team ながの」になって、復興に頑張っていることを事前の交信で知りました。そのがんばっている様子をぜひ本校の児童や地域の人にも、映像で伝えてください。お願いします。
伝えたい相手	岡崎市情報担当（IZA OK イザ オッキー）の熊倉様
伝えたい内容	信里小学校小学校との交信でフリーソフトを探して提案して下さったり信里小に連絡して下さったりして、大変に感謝しています。 2 月 4 日の当日だけでなく、毎回の交信練習にも必ず来ていただいて、交信の操作の仕方を教えていただいたり、トラブルが生じないように見守っていただいたり、直接信里小学校の方にも操作方法を TV で助言や支援をされたりして、大変感謝しています。



記入日	西暦 2020 年 1 月 15 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	まいどあり！どこより安い「非常食」！
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 2 0000 円
実践の準備にかかった時間	4 ヶ月 西暦 2019 年 11 月～2 月
実践活動を実施した日時	① 11 月 1 日、②11 月 9 日、③12 月 3 日、④12 月 8 日 ⑤12 月 15 日、⑥1 月 15 日、⑦2 月 15 日 (予定)
実践の所要時間	①～⑦作業によって異なる 合計で約 5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 4 0 人
防災教育の対象者の属性	全児童と保護者 学区内の地域の人々
防災教育の対象者の人数	約 250 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市常磐東学区
実践を行った具体的な場所	① ⑥⑦学校 ②米河内町③大柳町④新居町⑤小丸町 ②～⑤は学区内の町名で、場所は各町の公民館
★実践に必要なだった特定の能力	とくになし

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	①令和元年度アンケートの結果、「非常食」を備えている家は 46% (111/244 人)で、6 年前 (平成 26 年度)「非常食」調査では、50% (137/272 人) に比べて若干下がってきている傾向にある。 非常食を地域の方々にも蓄えていただきたい。(知識・技能) ○アンケートや電話からも地域の方から、「6 年前に非常食を学校で販売してくれたが、5 年が過ぎて期限が切れてしまったので、同じものを販売してほしい」との声があった。さっそく児童に話したら地域のために何とかしたいという気持ちが生まれた。(人間性) ○6 年の児童 6 名が、全戸に「非常食」の大切さを訴え、注文の「ちらし」を作って全戸に配付して購入された方々にメッセージカードを添えて配付することで、地域の防災意識を高めたい。(人間性) ○児童がこの活動を通して、表現力・思考力・判断力を培うとともに
--	---



	地域の人々の願いに貢献することで、地域への愛着をもたせたい。 (表現力・思考力・判断力)	
どの力を身につけようとしたか？ 該当しないものを削除し該当するものを1つ残す	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	○防災会議 (教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなる) ① 第3回防災会議 9月20日 のアンケート結果 アンケート調査結果 非常食は、準備率が 約46%で6年前の(50%)と比べて減少していることが分かった。原因は田舎であるので学区には飲料水用の井戸を備えている人が多いこと、家庭菜園で米や野菜、果物をつくらしている家庭が多くあるから危機感が薄いと考えられる。 ・アンケートや地域の方から、「6年前に非常食を学校で販売してくれたが、5年が過ぎて期限が切れてしまったので、同じものを販売してほしい」との声があったことの報告。 ・これらの情報を担任が児童に説明をすると、「安く販売して地域に役立てたい」との声があがった。 ② 販売業者をさがす (10月初旬) ・子供たちがインターネットで調べたが、非常食は思った以上に根拠が高いことを知る。6年前は「5年保存パン 200円」「5年保存水 200円」で販売した。同じパンはインターネットでは400円から500円もしていた。6年前の業者について調べたが廃業されていてやっていなかった。 ・学校で学区の社教委員長さんにお伺いして調査していただき、以前	

防災アンケート 2019. 8 月実施 244 人中

ア	避難所・避難経路・危険箇所	62 人
イ	災害時の連絡先・連絡手段	34 人
ウ	緊急時の非常袋など準備	75 人
エ	非常食や非常水などの準備	111
オ	倒れないように家具の固定	31 人
カ	自宅の耐震への補強など	11 人
キ	その他	2 人
ク	何も見直しをしていない	60 人



の非常食を関係も受け継いでいる業者「SS フード」を見つける。

- ・学校（校長と社教委員長）で、値段について交渉し、学校と社教が中心となり、教育の一環としての活動であることと、一括で仕入れることを約束して安価な値段で引き受けてくださった。

③ 非常食のチラシを児童が作成（10月下旬） ※チラシは別紙参照

- ・校長から話を聞いて、児童がチラシを作成して、回覧板で学区全域に配付したいと校長に申し出た。

④ 学区全世帯に非常食のちらしの配付（11月1日）

- ・校長から全ての町の総代さんに依頼して、学区全域にチラシを配付して、注文を取り、1月14日までに学校に報告していただくようお願いした。



⑤ 出前防災発表で

「防災パン」「保存水」の紹介

- ・11月1日(全校児童)、11月9日(米河内町)、12月3日(大柳町)、12月8日(新居町)、12月15日(小丸町)及び、1月9日(全校児童)などで紹介することができた。



⑥ 今後の非常食の予定として

- ・SS フードに発注 1月20日(学校でまとめて注文)
- ・SS フードから品物 2月15日(品物がまとめて届く)
- ・学校から各町総代へ 2月20日(総代に届く)
- ・総代から注文者へ 2月末日(各町の注文者に配付)





得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 児童がアンケートの結果や地域の声を聞いて、実施していることを知り、多くの人が賛同してくださり、大反響となった。 ② その結果(R2.1/15)の段階で、保存パン 510 個、保存水 318 本の注文があった(最終的にはもう少し増えそうである)。 ③ 保存パンは、全世帯の 8 割 250 個売ればよいと予想していた。だが、全世帯数 330 をはるかに超える想定外の注文となった。 ④ 保存水においても、井戸の保有率が高い学区としては、世帯数の 5 割 170 本を予定していた。結果、全世帯数に迫る本数となった。 ⑤ 6 名の児童が訴えていたことに、地域の方々が応えていただき、達成感が生まれ、「やればできるんだ」という気持ちも育った。 ⑥ 多くの人に自分たちの言葉で考えて訴えることで、表現力・思考力・判断力も培われた。	 各町で「非常食」の必要性を呼びかける児童  学校でも非常食を呼びかける児童
どのくらい身につきましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを残す</u>	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	大いに 大いに 大いに
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるよ	・児童だけでは業者を見つけることも難しいので、学校や地域の人の助けを借りて業者を見つけることができた。 ・業者との校章においても、一括まとめて購入した場合、本数の増加	



うに書いてください	によって値引きをお願いするなどの交渉も児童ではできない。学校で担当が直接話をした。 ・チラシの配付、出前発表などの交渉においても、地域の総代さんや社教委員会などとの交渉は学校の担当で行った。その結果配付の日程や注文などの回収なども全て地域の総代さんに依頼できた。
-----------	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について 1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください	
関係者の名前・団体名	SS フード株式会社
関係者の説明	非常食などの食品を販売する会社
関係者の連絡先	0564-47-8728

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ 1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください	
伝えたい相手	地域の皆さん
伝えたい内容	「家には家に畑もあれば山もある、井戸もあるので必要ない」とつぶやいていた方も、子供たちのたどたどしい説明の後、その方は、 「それじゃあ。俺も、みんなと一緒に協力するでな。」 と、子供たちにやさしく声をかけて、励ましてくださいました。 本当に地域のみなさんには感謝します。 最初はとても緊張していた子も、皆さんの温かい言葉や笑顔で、子供たちは安心して話すことができました。きっと話すことに少しずつ自信がついてきたのだと思います。



記入日	西暦 2020 年 1 月 15 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	日本で初の「土砂災害マイタイムライン」で出前発表
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 30000 円
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年①9/12②9/20③11/9④12/3⑤12/8⑥12/15
実践の所要時間	1 回につき約 40 分 6 回の合計時間 約 4 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 30 人
防災教育の対象者の属性	① 全児童と保護者 ②～⑥学区内の地域の人々
防災教育の対象者の人数	約 250 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市常磐東学区
実践を行った具体的な場所	① 学校 ②安戸町③米河内町④大柳町⑤新居町⑥小丸町 ② ～⑥は、学区内の町名で、場所は各町の公民館
★実践に必要なだった特定の能力	とくになし

達成目標 社会的・地域の時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	1 地域の人々に関する目標 ○防災アンケートでは災害が発生しても家にいると答えた人が、107 人 (43%) であった。多くの人の危機意識の弱さを感じる。 ○災害は甚大化傾向にある。「被災さ れても自宅にいる」と答えた人 親子のコミュニケーションツール に、「土砂災害マイタイムライン」を実施したい。学区で最も心配な土砂災害で、「いつ」「誰が」「何をするのか」を家族で話し合い災害に備えることをさせたい。 ○また、「土砂災害マイタイムライン」を使い防災を話し合うための家族コミュニケーションツールの 1 つとしたい。
--	---





	2 児童に関して目標 ※「土砂災害マイタイムライン」は別紙参照 ○「土砂災害マイタイムライン」を親子で実施することで、家族の防災の役割を考えさせたり、準備の大切さを感じ取らせたりしたい。 ○「土砂災害マイタイムライン」を地域の人に説明するために、学習することで、避難準備・避難勧告・避難指示や警戒レベル1～4について、事前に学ぶことができる。 ○「土砂災害マイタイムライン」を、児童が、地域の方に自分の言葉で説明することで、表現力・判断力・思考力を培わせたい。 ○地域の人に説明したりすることで、地域に貢献しているという事故存在感や達成感を体感することができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
該当しないものを削除し該当するものを1つ残す	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	①「土砂災害マイタイムライン」は 防災会議（教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなるメンバー15 名前後）で作成。  防災指導員の内藤さんと中根さん ○防災会議① 5月22日 13名参加 ・「土砂災害マイタイムライン」を作成することを協議で決定する。 ・主な内容は、本年度のテーマを「避難」として、「土砂災害」に遭遇した時に、「だれが」「いつ」「何をするのか」などを考えさせたい。 ○防災会議② 7月10日 15名参加 「内容の審議」 ・分担：①最初のたたき台を「大学」が提出した。②防災会議で内容を協議し、授業で児童にも意見を求め、学校で修正し、印刷。 ○実践①親子防災学習 学校の体育館 9月12日 約40分 約90人 ・体育館で、本校在学の28世帯の親子が「土砂災害マイタイムライン」を実施。最初に教師が全体でやり方の説明をした後、親子で真剣に話し合って、シールをはったり、シールがないことについては  親子で内容を相談する様子	



	直接用紙に記入したりした。 ②実践②出前防災発表 安戸町公民館 9月22日 約30分 約30人 ・事前に校長が総代にお願いして、安戸町の集会に校長が参加して「土砂災害マイタイムライン」を実施。どの人もシールを貼るだけであったが、説明を聞いて楽しそうに家族と話をしながら行っていた。地域の小学生も集会に参加しており、家族で再び「土砂災害マイタイムライン」を実施。そこに参加した6年児童は、自分たちでも「マイタイムライン」の出前発表ができそうだと感じたそう。 ③実践③出前防災発表 米河内町公民館 11月9日 約40分 約40人 ・台風15号や19号の時に、「警戒レベル4」となり「避難勧告」や「避難指示」が出された。しかし、「どこへ避難したらよいか、何を持っていくか、わからない」という意見が多くあり、亡くなった人も多数出たことを知った。 ・6年児童が初めて、日曜日に出前防災授業を企画した。米河内の集まりを知り、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決め学校で練習をして、「土砂災害マイタイムライン」を実施した。 ④実践④出前防災発表 大柳町公民館 12月3日 約40分 約30人 ・お年寄りの方が集会に多く集まることを知り、個別に丁寧な説明が必要だと判断して総合的な学習の授業を使い、全員で参加した。 ・6年生全員で6名が担当を決めて、「土砂災害マイタイムライン」を実施した。 ⑤実践⑤出前防災発表 新居町公民館 12月8日 約40分 約30人 ・新居町の出前防災授業を企画し、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決めて実施した。 ⑥実践⑥出前防災発表 小丸町公民館 12月15日 約40分 約30人 ・小丸町の出前防災授業を企画し、都合のつく児童が参加した。事前に説明の担当を決めて実施した。
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 愛知県より、「土砂災害特別警戒区域」として117か所指定されている。「土砂災害マイタイムライン」は、この地域にとって有効な方法であると感じた。(地域性) ② 「土砂災害マイタイムライン」を本年度本校が独自に作成した。



	マイタイムラインは、多くあるが、土砂災害を対象としたのは全国初であると、愛知工業大学の小池則満教授は述べられた。(独自性) ③ 「マイタイムライン」は実施することが大切で、配付するだけでは功を成さない。「地域の方が学校に来られないのであれば、自分たちが地域の集会に参加してやってはどうか」と考えて出前発表を実施した。(自主性) ④ お年寄りの方々に寄り添い、その場で判断して、自分の言葉で考えてわかりやすく説明をすることができた。(判断力・思考力) ⑤ 「土砂災害マイタイムライン」を説明するためには、書かれている「避難警告」「避難指示」、「警戒レベル」等の言葉についても、知識として知っておくことが必要と感じて学んだ。(知識・理解) ⑥ 地域の人々と直接かわり感謝されることで、児童は、「自分は地域の人々のために役立っている」という自尊感情が達成感となり、さらに学ぶことへの楽しさや意欲につながっている。(学ぶ意欲)	 小池則満教授  お年寄りに寄り添い説明する児童
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
該当しないものを削除し該当するものを残す	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	① 「土砂災害マイタイムライン」作りで、最初はどのように作ってよいか全くわからなかったが、防災会議での多くの皆様のご意見で次第に形やデザイン、内容なども向上してきた。 ② 地域に出向くのに、なかなか集まりがいつあるのかわからずに困っていたが、防災会議で総代会長さんや社教委委員長さんから声をかけていただき、スムーズに参加することができた。	
やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください		



	③ 土・日などの集会では、塾やクラブなどがあり、自主的に児童が集まらないことも予想したが半数以上の子が参加でき、保護者も児童の願いで、集会の会場まで送迎をしてくださり、スムーズに出前発表が実施できた。	 自分の言葉で必死に説明する児童
--	---	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	学区社会教育委員会(社教) や学区総代会や愛知工業大学
関係者の説明	7年前から本校のためにいろいろとアドバイスをいただいている
関係者の連絡先	大学 (TEL 0 5 6 5 - 4 8 - 8 1 2 1)

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	常磐東小学区の地域の皆さん
伝えたい内容	地域みなさんが、ご多用の中時間を割いて、子供たちの説明をずっと耳を傾けて聞いてくださり本当にありがとうございました。 説明も最初の地域では声も小さく、説明の仕方も何を言っているのか棒読みではっきりわからない面がありました。地域の皆さんが、まんして耳を傾けて静かに聞いていただいた、おかげで児童が「次も発表したい」と言うようになってきました。本当にいろいろな面で成長できました。
伝えたい相手	常磐東小学校 6年生児童
伝えたい内容	児童が率先して「土砂災害マイタイムライン」を出前で発表できたことはすばらしい。今回、自分で言葉を考え、伝わるように判断し、相手に応じて表現することができたことは大きな成長です。



自分で言葉を考え丁寧に説明する児童



記入日	西暦 2020 年 1 月 14 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岡崎市立常磐東小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	1 1
タイトル	もし、「大災害」にあったらあなたはどのようにしますか？
実践担当者のお名前	近藤 嗣郎

実践にかかった金額	ほぼ 2 0000 円
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 8 月 1 日～西暦 2019 年 8 月 31 日
実践の所要時間	アンケートに答える時間は 10 分程度
実践の運営側で動いた人の人数	約 50 人
防災教育の対象者の属性	地域住民
防災教育の対象者の人数	約 330 人
実践を行った都道府県と市区町村	愛知県岡崎市常磐東学区
実践を行った具体的な場所	各家庭
★実践に必要なだった特定の能力	特になし

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	① 防災に関するアンケートを通して、本学区で最も心配な「土砂災害に対する避難」について、地域の方々に真剣に考えていただくきかいとする。 ・土砂災害に遭遇した時、どのタイミングで避難するのか。 ・体が不自由な人がいて、補助が必要かどうか。 ・避難場所はどこでどのような手段で避難するのか。 等を考えることで、土砂災害への対応を考えていただく機会とした。 ② 児童には、アンケート作りにおいて参加することで、地域の人々の防災に関わる意識や地域の一員としての自覚を育てたい。 ③ 「防災アンケート」の結果を発表することを通して、思考力・判断力・表現力を培いたい。 ④ 「防災アンケート」を通して、地域の人々の土砂災害に関するお考えを知ることや希望などを知ることができる。(知識)
---	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
該当しないものを削除し該当するものを1つ残す	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	○防災アンケートについては防災会議（教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなるメンバー15 名前後）で作成。 ◎計画の日程と内容について ※結果は別紙資料参照 ○防災会議① 5 月 22 日 13 名参加 「アンケートの趣旨を協議」 ・防災アンケートを作成することを協議で決定する。 ・主な内容は、本年度のテーマを「避難」として、「土砂災害」に遭遇した時に、具体的にどのような行動をとるのか調査する。 ○防災会議② 7 月 10 日 15 名参加 「アンケート内容の審議」 ・分担：①最初のたたき台を「大学」が提出した。②防災会議で内容を協議し、授業で児童にも意見を求め、学校で修正し、印刷。④地域の総代さんを中心に全戸に配付と回収をする。④大学が学校から受け取り、集計する。⑤学校で児童わかるようにグラフ化する。 ○防災会議③ 9 月 20 日 16 名参加 「アンケート結果の協議」 学校が地域に結果を配信する。今後、児童が結果をわかりやすく校内防災研究発表会で全校児童に発表する。  アンケートの結果や活用について協議する防災会議	
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	○多くの人はこれまで大丈夫だったので警戒レベル4 でも避難をしない人が予想以上に多かった。 ・244 世帯／336 世帯（73%）の回収率であった。 ・107 人（43%）が、自宅が土砂災害になっても自宅にいるとした。	



	理由は避難所が遠いので危険、移動する経路が危険、避難するのに困難な人がいるので危険などであった。 ・22人(9%)が近くに家族がいないので手助けが必要と答えた。 ○非常食などを備えている家は46%(111人)と十分ではなかった。	 アンケートについて話し合う保護者
どのくらい身につきましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを残す</u>	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	かなり かなり かなり
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	○常磐東小学校は土砂災害特別警戒区域に指定されており、危険を回避する避難場所ではあるが、避難所として認定されていない。 ○地域の方が安心して避難できる場所が学区にはないことが困った。 ○今後どのような災害があるかもしれない。想定外のことが起こることもある。各家庭が早めに避難できる場所をあらかじめ決めておくために、「土砂災害マイタイムライン」が必要となった。 その結果、本校独自で「土砂災害マイタイムライン」を作成した。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	愛知工業大学&地域防災研究センター
関係者の説明	7年前から本校のためにいろいろとアドバイスをいただいている
関係者の連絡先	0565-48-8121
関係者の名前・団体名	特定非営利活動法人ドウチュウブ（DoChubu） 小穴久仁 落合鋭充
関係者の説明	愛知工業大学地域防災研究センター内にある大学と連携している
関係者の連絡先	0565-48-8818

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ



1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください	
伝えたい相手	常磐東小学校の全児童・常磐東小学区の地域の皆さん
伝えたい内容	事前に家庭で避難する場所、タイミング、経路等を決めておくことが絶対に大切です。 昔は「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていますが、今では「災害は予想以上の大きな被害をもたらす常によってくる。」ので、 早め早めの準備や対応があなたの命を救います。
伝えたい相手	防災会議の皆さん
伝えたい内容	大学・地域・NPO 法人・保護者・行政・学区防災指導員等の皆さんが、子供や地域のために、真剣に協議してくださり、それぞれの立場での素晴らしいアイデアや学校だけではどうにもならないアンケートの配付や回収等感謝します。 おかげで子供たちもアンケート結果から次の課題(非常食・避難するときの準備・「土砂災害マイタイムライン」の必要性)を見付けることができました。



フォームへのご意見 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です)

★このフォームは書きやすかったですか？ わかりにくいところ, 改善すべき点などあれば教えてください	○たくさんのプランを提出する場合、どこが最初かわからなくなる。 おそらく読み手はもっとわかりにくいと思う。最初の表(記入日やタイトル等)は枠が黄色(水色・桜色)などで塗りつぶしてあると、書く側も見る側もとてもわかりやすい。 ○フォームが決まっていて、その意図がわかりにくいものや表現するのが難しい内容もあり、もうすこし自由に表現したほうがよい。 ○どのくらい身についたかなどについての評価は、児童が対象でない場合は、どうしたらよいのか？ また、客観的な評価というよりも主観的な評価となってしまう。 ○4 月の段階(遅くても 10 月の中間報告の日)で、最終の提出するものについての説明がほしかった。
--	---